

# 学校生活の充実度に関する一考察 一部活動との関連を中心として

田尻 昌大 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)  
指導教員 中菌 伸二

キーワード：部活動，学校生活，充実度

## 1. 緒言

(山本 2011) は、部活動をすることで社会性の獲得があると述べている。(藤原 河村 2010) は、部活動に参加することでスクールモラルが向上すると述べている。文部科学省も、部活動は学校教育の一環としていて、部活動をすることが生徒に与える影響というのは大きく、成長できる場所と考えている。

そこで本研究では、部活動をするということが生徒の学校生活の充実度を高めると考え、部活動をしていない生徒との違いがあるのかを調査するというを目的とする。

## 2. 研究方法

本研究の調査対象は滋賀県の公立高校 K 高校、全校生徒 (全 672 人、男 311 人、女 361 人) に無記名自己記入式での質問紙調査を実施した。

部活動をしている生徒に対して部活動に関する質問と、全生徒に対して学校生活に関する質問を 5 段階評価で答えてもらった。また、学校生活の評価を 10 段階で答えてもらった。

## 3. 結果と考察

学年	平均	最大	最小	標準偏差	両側P値	有意差
1年生						
部活をしている	6.78	10	1	1.75	0.0014	P<0.01
部活をしていない	5.47	8	3	1.36		
2年生						
部活をしている	6.71	10	1	1.85	0.114	ns
部活をしていない	6.05	10	1	2.27		
3年生						
部活をしている	7.42	10	1	1.68	0.2342	ns
部活をしていない	7.03	10	1	2.31		

表1: 部活動所属の有無による学校生活充実度の違い(各学年)

表 1 より、各学年で、部活動をしている生徒の方が部活動をしていない生徒に比べ、学校生活の充実度の平均値が上回っていることが分かる。実際に 1 年生では統計的有意差が認められた。(P<0.01)

また、3 年生は、1, 2 年生に比べ全体的に充実度は高い。3 年生は最高学年となり、学校生活において部活動などでも中心的な存在になり、色々なことが最後になるため、感じるものが 1, 2 年生に比べると違い、思い出に残る。そのため、充実度に違いが出てくると考える。

## 4. まとめ

この結果から、部活動をしている生徒の方がしていない生徒に比べ学校生活が充実しているということが示唆された。部活動をすることが、学校生活に与える影響は大きいと思われる。但し、部活動を一生懸命やってきて喜びも悲しみも仲間と共に感じてきた生徒でないとならない結果であるだろう。しかし、部活動に強制的に所属させるのではなく、あくまでも生徒が自らの意思で部活動に所属するということに意味があると考え。部活動を一生懸命頑張る生徒が増えることを祈る。

## 引用・参考文献

藤原和政・河村茂雄 (2010) 高校生における部活動への参加の有無とスクールモラルとの関連. 日本教育心理学会総会発表論文集, 52: 443.  
山本浩二 (2011) 社会性獲得にみる学校運動部活動の教育的有効性に関する考察. 日本高専学会誌, 16 (3) : 153-158.